

## 馬込教会

馬込教会は長崎湾のすぐ外側に浮かぶ伊王島にあります。キリスト教が禁止されていた 2 世紀半の間、多くのキリシタンがここに移住してきたのは、伊王島が佐賀藩の管轄下にあったためです。佐賀藩の役人は周辺の他の藩ほどキリシタンの迫害に熱心ではありませんでした。しかし、1865 年の「信徒発見」の後、長崎のフランス人宣教師たちが潜伏キリシタンたちとの接触を再開したことにより、新たな弾圧の波が押し寄せ、佐賀もこの波に飲み込まれました。この弾圧は 1867 年に始まり、明治政府がついに禁教令を解いた 1873 年まで続きました。

キリスト教が合法化されると、伊王島に住んでいたキリシタンたちは早速教会を建てることにしました。最初はおそらく地元のキリシタンたちをまとめるリーダーの家を教会とただけでした。その後、1890 年にパリ外国宣教会のフランス人司祭ジョゼフ・マルマン神父が正式な教会を建設しました。しかし、この建物は 1927 年の落雷と 1930 年の台風によって大破しました。現在の 5 本の尖塔を持つ白い漆喰仕上げのゴシック様式の建物は 1931 年に建てられたものです。1923 年に起こった関東大震災の後、日本中の公共建築物は、比較的脆弱なレンガではなく、鉄筋コンクリートで建てられるようになりました。高性能な鉄筋コンクリートが利用可能となり、キリシタンであることを隠す必要もなくなっていたことにより、教会はこのような華麗なデザインを採用できたのです。